

フィールドスタディー「考古学調査・研究の最前線」

平成29年度大東文化大学秋期オープンカレッジ（東松山キャンパス）

考古学調査・研究の最前線

<フィールドスタディー>

引率講師：坂本 和俊 先生（講座講師）

☆日時 平成29年12月2日（土）※雨天決行

》 集合場所	◎第一集合地 東松山キャンパス・管理棟前駐車場9：00集合 ◎第二集合地 東上線高坂駅西口朝日興産前9：10集合 ※フィールドスタディーの参加・不参加、及び集合地を11月25日（土）までにご提出ください。 <u>（当日不参加になった場合は必ずセンターにご連絡ください。）</u>
》 日 程（予定）	9：00東松山キャンパス出発→9：10高坂駅出発→（狭山PA休憩）→熊野神社古墳展示館（見学）→大國魂神社（見学）→府中市郷土の森博物館（見学・昼食）→（狭山PA休憩）→高坂駅→大東文化大学東松山キャンパス（解散）

正面は熊野神社拝殿/その背後に武蔵府中熊野神社古墳が所在する





熊野神社

御祭神 素戔嗚命(すさのおのみこと)
社殿 本殿(神宮入母屋造) 拝殿(入母屋造)
「市有形文化財指定」
例大祭 九月十五日

由緒

當神社は亙古「熊野大権現」と稱され旧本宿村の総鎮守であった。
その創建は正しく、初期は伊弉諾大神、由緒境内にありきである。神代書が転写されて
おり当地に「神宮」信仰の礎が奠かれ神仏習合の信仰形態が顕著であった。
本殿は往時の遺存し拝殿は天保九年(一八三八)九月改築との傳説あり、
拝殿内には江戸時代後期の漢詩人「江山翁大権現」揮毫の「熊野大権現」と記した
額が殿内にある。土境裏正面に「天明八(一八二七)年九月廿七日 當村区字中野上 松本氏
と刻まれた扁額があり、正北から境内を守護している。

恒例祭

- 歳旦祭 (二月一日) 現行中野町民
- 神嘗祭 (三月十五日) 現行中野町民
- 例大祭 (六月十五日) 現行中野町民
- 新嘗祭 (九月十五日) 現行中野町民
- 除夜祭 (十二月三十一日)

府中市指定文化財

有形文化財（建造物） 熊野神社本殿・拝殿

指定 平成二〇年五月三〇日

熊野神社本殿の建築年代は、虹梁絵様や彫刻等の構成が簡素であることなどから一八世紀前半と考えられます。本格的に施工された屋根の柿葺も造営当時の状態を良くとどめており、江戸時代中期の府中周辺地域における社殿の形態が良好な状態で保存されています。また、拝殿の建築年代は、室内の長押上の壁に掛けられた木板、虹梁上の中備下の墨書及び虹梁絵様から一九世紀前半と推定されます。特に向拝部分は、一九世紀の華やかな装飾を今にとどめています。

本殿及び拝殿ともに、江戸時代中期から幕末における神社建築の造形をよく現している、市内でも数少ない貴重な建築物です。

平成二一年八月

府中市教育委員会

左手は熊野神社本殿の覆屋



武蔵府中熊野神社古墳の概要

■ 奈良時代の土葬方式

本古墳は、7世紀の中頃の熊野群臣に築造された、土を高く盛りあげた円形土葬墓です。古代の中国では、土をドームのように盛りあげ、土葬は中国のものと似せられていました。この考えを「瓦棺墓」といいますが、このように中国の思想を神聖として築造されたと考えられています。

■ 古墳

古墳の中心部は、南北より約1メートル傾いていますが、古墳の構造にあたって方向を考慮していたものと考えられます。

■ 古墳の大きさ

墳頂の傾斜は、土葬口の土砂の崩落を防ぐ、土葬口の下部の一段約20m、土葬口の下部の一段約30mを築ります。墳頂の直径は、土葬口の傾斜で約6mあります。墳頂全体の中心は、石室の「羨道の中心（玄室）」の中心に合わせるように設計されています。

■ 埋葬された人物

古墳の中心部には古墳が、全国でも数少ない「円形土葬」という珍しい古墳であることが、調査品の出土から、その埋葬された人物とは必ずしも古墳の中心部であったと考えられます。埋葬された人物は、当時の武蔵中郡、古墳出土品に記されたものが少ないためわかりません。

古墳の保存と整備

■ 墳頂の保護

古墳の墳頂は、まず本来の古墳が壊れないように、石室（土葬口）や羨道の中心部を取り下げた土葬口の傾斜、傾斜して墳頂を保護しました。さらに、その上に土を盛り、保護層を築造して、古墳の崩壊を防ぎました。

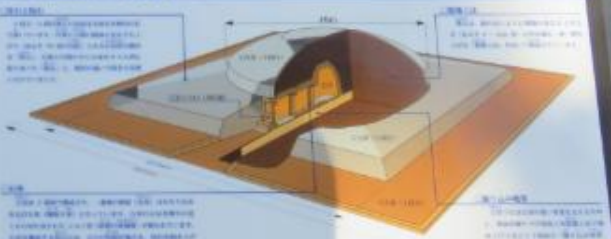
■ 古墳の復元的整備

築造当初に近い状態で復元を試みています。古墳（土葬口）の平面の大きさと傾斜の向きは、本来の古墳と同じ大きさ・向きに復元しています。土葬口の傾斜と土葬口の下部の傾斜の向きは、本来の古墳と同じ向きに復元し、1997年現在まで復元しています。また、古墳入り口（羨道）を復元した土葬口は、下の墳頂を保護するため、墳頂より20ほど高く復元しました。

■ 貴重発掘品

石室の中で見つかった銅製器具（刀の柄の末端に付ける金部）は、数個の部品に組んで埋められています。この種類の中には「銅製」で形式される「土葬」があります。「土葬」は、銅製に作られた銅製器具（金部）に作られた金部は、銅製の金部を土葬として埋められたと考えられています。また、古墳の中心部には埋められたものとして、当時の日本では珍しい金部として土葬されたものと考えられます。

古墳に使われている技術



これが武蔵府中熊野神社古墳/上円下方墳/7世紀後半の築造



西側の方墳部分を見たところで、色目の替わった奥の部分が当時の石で復元した部分と云う/手前の部分の石は補填されたもの



この建物は新しく建設された武蔵府中熊野神社古墳展示館

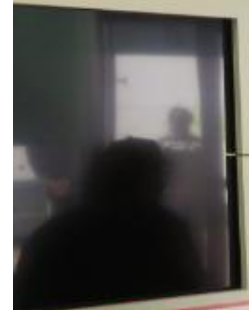


国史跡 武蔵府中熊野神社古墳展示館

古墳のかたちと大きさ

古墳は、古墳時代を通じて造られてきました。その形や大きさ、築造の目的などは、時代や地域によって異なります。武蔵府中熊野神社古墳は、古墳時代の中期に築かれたと推定されています。その形や大きさは、古墳時代の中期の古墳の特徴をよく表しています。また、古墳の内部には、土器や埴輪などの随葬品が埋め込まれていました。これらの随葬品は、古墳の築造者の身分や地位を示していると考えられています。古墳の築造は、古墳時代の重要な文化遺産であり、その研究は、古墳時代の社会や文化の理解に大きく貢献しています。

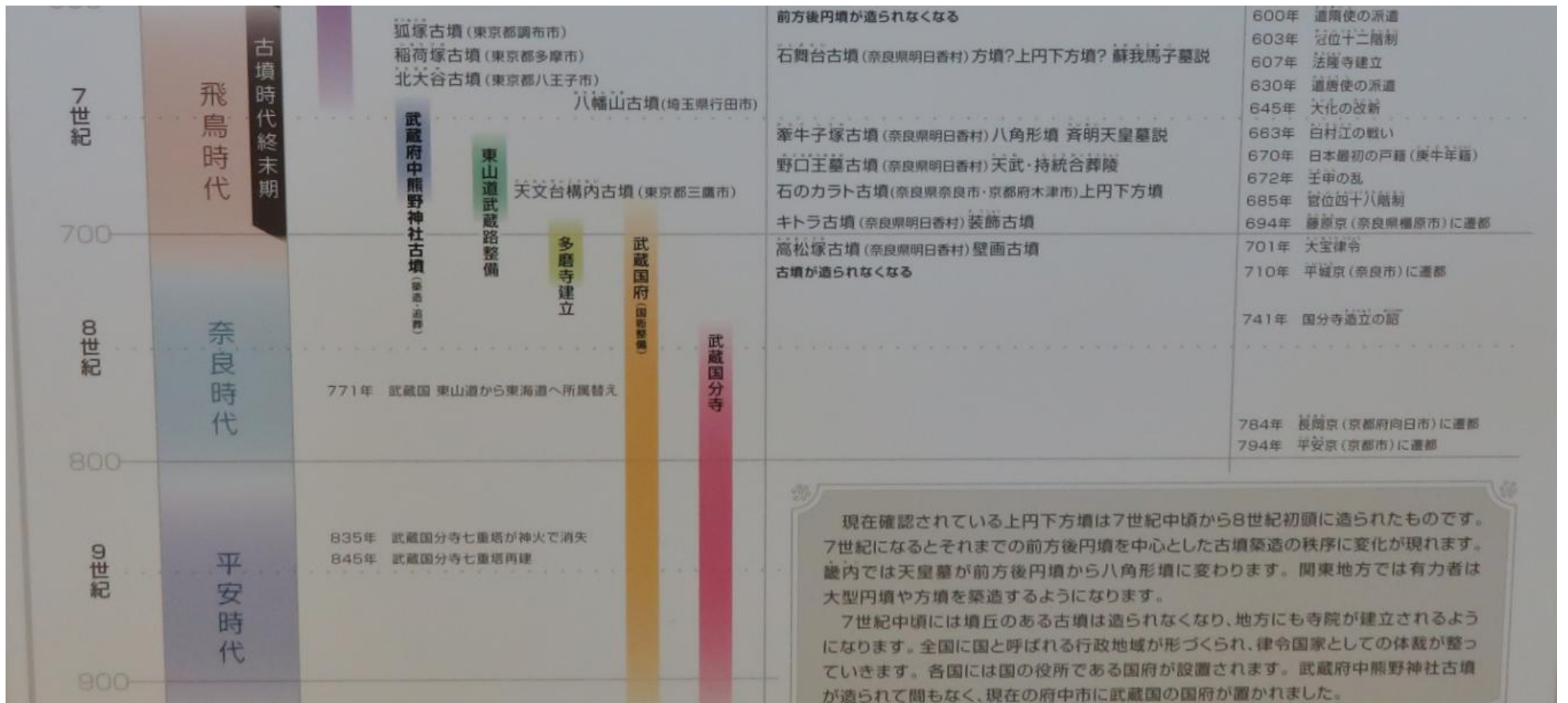
古墳の内部には、土器や埴輪などの随葬品が埋め込まれていました。これらの随葬品は、古墳の築造者の身分や地位を示していると考えられています。古墳の築造は、古墳時代の重要な文化遺産であり、その研究は、古墳時代の社会や文化の理解に大きく貢献しています。





上円下方墳の造られた時代

西暦	時代	武蔵国	畿内の古墳	日本史
5世紀	古墳時代中期	野毛大塚古墳 (東京都世田谷区)	横穴式石室が造られ始める 大山古墳 (大阪府) 仁徳天皇陵 前方後円墳 (日本最大)	
		稲荷山古墳 (埼玉県行田市) 「辛亥年」からはじまる115文字の金象嵌銘文鉄剣出土。 二子山古墳 (埼玉県行田市)		478年 倭王武が中国南朝に上表文を送る
6世紀	古墳時代後期	白糸台・高倉・御殿塚古墳群 534年 武蔵国造の乱 丸墓山古墳 (埼玉県行田市)	今城塚古墳 (大阪府高槻市) 前方後円墳 継体天皇墓説 藤ノ木古墳 (奈良県斑鳩町) 見瀬丸山古墳 (奈良県橿原市) 前方後円墳 欽明天皇墓説	527年 筑紫国造の磐井の乱 538年 仏教公伝
		観音塚古墳 (東京都大田区)		593年 聖徳太子摂政となる



現在確認されている上円下方墳は7世紀中頃から8世紀初頭に造られたものです。7世紀になるとそれまでの前方後円墳を中心とした古墳築造の秩序に変化が現れます。畿内では天皇墓が前方後円墳から八角形墳に変わります。関東地方では有力者は大型円墳や方墳を築造するようになります。

7世紀中頃には墳丘のある古墳は造られなくなり、地方にも寺院が建立されるようになります。全国に国と呼ばれる行政地域が形づくられ、律令国家としての体裁が整っていきます。各国には国の役所である国府が設置されます。武蔵府中熊野神社古墳が造られて間もなく、現在の府中市に武蔵国の国府が置かれました。

その西隣には石室復元展示室が設けられている





さて、ここは武蔵総社大國魂神社





む さし そう しゃ おお くに たま じん じゃ
武蔵総社 大國魂神社

当神社は、大國魂神を武蔵の国魂と仰いで、鎮祭し祠った神社である。

第12代景行天皇41年（111年）5月5日大神の託宣によって創立せられ、武蔵国造が代々奉仕して祭務を司った。其の後孝徳天皇の御代に至り、大化の改新（645年）により武蔵の国府がこの地に置かれて、当社を国衙の斎場として、国司が祭祀を奉仕して国内の祭政を司った。国司が国内諸社の奉幣巡拝等の便により側に国内の諸神を配祀したので「武蔵総社」と称し、又両側に国内著明の神社六社を奉祀したので「六社明神」「六所宮」とも称された。鎌倉幕府以後徳川幕府に至るまで代々幕府の崇敬厚く、再三社殿を造営し、徳川幕府より社領500石を寄進せられた。明治18年より昭和21年迄官幣小社に列せられ、其の後宗教法人と成る。 (例大祭五月五日)

大國魂神社・府中市観光協会

ここは随神門



鼓楼/江戸時代末再建



府中市指定文化財

有形文化財（建造物） 大國魂神社鼓楼

指定 昭和五六年一〇月一六日

鼓楼は太鼓を懸け時刻を知らせるための建物で、元来中国で発達し、わが国へは鎌倉時代に移入され、主として寺院に設けられました。そして江戸時代になると鐘楼と相對して造られることが多く、宇治の万福寺や日光東照宮のものがよく知られています。

大國魂神社では慶長年間の造営の際に、三重塔と相對して建てられました。が、正保三年（一六四六）の大火で焼失、二〇〇年余たった嘉永七年（一八五四）に再建されました。現存するこの鼓楼は、その再建連社板によれば、府中をはじめ日野・多摩・町田の各市域の一七名の人々によって寄進されたものであることがわかります。

その後、数度の修理が加えられていますが、よく当初の原形を保っており、神社では数少ない貴重な建築物です。

平成二二年三月

府中市教育委員会

正面は拝殿



拝殿から振り返って中雀門とその先の随神門を見たところ



これが拝殿/その左手奥に本殿がある



拝殿の左手に標柱と説明板が立っている



「都重寶 大国魂神社本殿」とある



東京都指定有形文化財（建造物）

おおくにたまじんじゃほんでん

大国魂神社本殿

所在地 府中市宮町三―一
指定 昭和三七年三月三十一日

律令時代国府にいた国司が国内における大社六社を一所に勧請祭祀したのが始まりで、当時は武蔵総社、六所社と称していました。源頼朝以降、歴代將軍家等武家の尊信が厚かったといいます。現存する本殿は、正保三年（一六四六）の火事による全焼の後、徳川四代將軍家綱の命によって、寛文七年（一六六七）三月に完成したものです。その後何度か修理を行っていますが、古式を伝えていきます。構造は、一間社流造の社殿三棟を横に連結した三間社流造の相殿造です。流造とは前面の屋根が長く伸びて庇（向拜）となったものです。流造自体は神社の建築様式としては最も一般的な形ですが、三棟合わせた構造様式は、遺例が少なく珍しいものです。三棟の社殿は一つ屋根の下にあります。それぞれ別々の神を祀っています。

平成二二年三月 建設

東京都教育委員会

正面が本殿



前方は御神木らしい



さて、ここは府中市郷土の森博物館





古代寺院「多磨寺」の瓦があった





「寺」と刻まれた土師器
Earthenware with "temple" inscribed
奈良時代-8世紀
武蔵国府開運遺跡(京町)出土 府中市教育委員会蔵

「多磨寺」の文字がある瓦
Roof tile with "tamadasen" inscribed
奈良時代-8世紀
武蔵国府開運遺跡(京町)出土 府中市教育委員会蔵

「多研」と書かれた硯
Inkstone with "takemi" inscribed
奈良時代-8世紀
武蔵国府開運遺跡(京町)出土 府中市教育委員会蔵
「多磨郡の役所の硯」を意味します。役所の真品だったのでしょうか。

参考ホームページ

http://www.ohoka-inst.com/musashifuchukumanojinjya_kofun.pdf

<http://www.ohoka-inst.com/tamaderaato.pdf>

<https://www.ookunitamajinja.or.jp/>